

開会の辞

田中 裕介（文学研究科長）



大学院文学研究科長の田中と申します。今日は雨で足が遠のくのではないかと心配しておりましたが、みなさまこのようにお集まりいただきましてありがとうございます。

本学には学部とは別に大学院があり、日本語・日本文学専攻、史学・文化財学専攻、臨床心理学専攻からなる文学研究科と、さらに食物栄養科学研究科という研究科があり、修士課程と博士課程に大学院生が在籍しております。

各専攻は狭いキャンパスの中で近くにいるわけですが、専攻が違っていると何をやっているかわかりません。同じ文学研究科といっても、私は史学・文化財学専攻の教員ですので、隣の臨床心理学専攻の授業がどんなものかさっぱりわかりません。そこで数年前から、今日講演いただく浅野則子先生が中心になって、各専攻でどのような先生方がどのような学問をどのような雰囲気で作られているか、少しでもみなさんにわかるようになればという趣旨で、この講演会・シンポジウムを立ち上げました。

はじめは専門分野の違うお話を聞いてわかるんだろうかと思いつながら参加したことを覚えています。しかし毎回参加しておりますと色々なものを色々な角度から教員各人が研究なさっている。その話を伺うと年に一度このような講演会シンポジウムを開いて、ほかの専攻の先生方がどんな研究をされどんな考え方をされているのかと、わからないなりに伺うだけで結構面白いな、というのが実際にシンポジウムを聞いた後の感想であります。

今回のテーマは「読むという営み」で、ちょっと難しそうなテーマではありますが、各専攻の先生方が、このテーマのもとに自分なりに考えていただいて発表していただくことになっております。そして何よりも浅野先生に「読むという営み」の中心であります「源氏物語の読み方」というタイトルで講演をいただくということになりました。

どうかみなさま最後までいろんな分野のお話を聴いていただければと思います。以上開会の辞といたします。